

それいゆはフランス語で太陽

Soleil

No.62
平成23年3月5日号
草加市男女共同参画情報紙「それいゆ」

■ご意見・ご要望をお寄せください■
発行 草加市自治文化部人権共生課
企画・編集 「それいゆ」編集協力員
☎048-922-0825
☎048-927-4955
〒340-8550 草加市高砂1-1-1
E-mail:jinken-kyosei@city.soka.saitama.jp

イクメンならぬ「イクメン」という言葉をご存知ですか？子育てを楽しみ、自分自身も成長しよう！と考えるカッコイイ男性のことを指す言葉で、度々マスコミなどでも取り上げられるようになりました。男女共同参画さわやかサロンではこの「イクメン」と、家事を積極的にこなす男性「カジメン」に注目し、写真展「イクメン・カジメン」を開催。育児・家事に取り組む男性の生き生きとした姿の写真が、市民の皆さんから数多く寄せられました。

サロンでの展示は3月5日（土）で終了ですが、市役所ギャラリーで3月28日（月）より再び展示予定です。家族とのあり方を考える輝く男性たちの姿は、見ている私たちにも希望を与えてくれます。皆さんも是非ギャラリーに足をお運びください。

男女共同参画フォーラム

しあわせへの近道 ～子育て、介護、定年退職～

男女共同参画フォーラムを草加市文化会館で2月11日（金・祝日）に開催しました。市内在住の女性講師 神田きらりさんの講談「山内一豊の妻」。茨城大学生涯学習教育研究センター長谷川幸介先生の爆笑講演、そして、きらりさんと長谷川先生の対談。歴史上の夫婦の意外な側面、定年退職後男性は社会の変化の中でどう生きるのか、女性のパワーと男性の積極的な関わり、人生はライブと二人の講師の熱い語りに会場が沸きました。

神田きらりさんの講談 ～山内一豊の妻～

ちょっと緊張した顔つきで高座に上がったきらりさん。

添乗員として働く中でお客さんとのよい関係作りに役立てたいと思い、話し方を学びたくて聞いた講談に魅かれ、その日のうちに神田松鯉（しょうり）氏に弟子入り。

前座の時は、女を出すな、化粧はしちやいけいと言われ、二ツ目に昇進してからは、化粧ぐらいしてこいと言われ、女性らしさが求められる世界のギャップ。今回、フォーラムをきっかけに、男女共同参画を学びこの矛盾を考えるようになりました。

いよいよ講談「山内一豊の妻」。山内一豊と言えば、戦国時代の武将。やりくり上手として有名な妻千代のおかげで名馬を手に入れることができた一豊。その馬が織田信長の目にとまり、貧しい生活の中でも武士として大変立派な心がけと誉められた。その時、一豊は、妻千代のおかげと言ひ、それが、内助の功の始まりとして語り継がれてきた話は皆様ご存知のとおり。



長谷川幸介先生 ～しあわせへの近道～

講談の世界となった時代や江戸時代の日本、ほとんどの人は男女同じように働いていた。男は仕事、女は家庭となっていたのは明治のころからだ。とりわけ、戦後の高度成長期に手取り早く豊かになるために「男は仕事・女は家庭」という役割分担を作ってしまった。これは、男だけでなく男女が選択したこと。

社会学で見るとこの世には、「職」と「役」二つの世界がある。職の世界は、お金と物の男の世界。量で計り、比べる世界。役の世界は、深さで計る家庭や地域の世界で比べられない世界。誰もが、この二つの世界を行き来するが、定年を迎えた男性は戻るべき役の世界が見えなくなっている。もう一つ、この世界で人と人は、「血縁」「職縁」「地縁」「友縁」の四つの縁でつながっている。役の世界の大切さに気づき、「縁」を育てることが幸せへの近道、そこに見えるのは男女共同参画社会。



きらりさんと長谷川先生の対談より

長谷川 きらりさんは、自分の思いを表現したくて講談の世界に入ったのに、入った途端、化粧はダメ、何はこうと講談界のルールがあつて、自分を殺してからじゃないと自分を打ち出せなかったと言ってたよね。

きらり これは男女年齢問わずだと思います。私の場合、入門までの28年間に培ってきた常識や枠組、家族の中での役割や位置をぶち壊す作業を、修業の中で師匠から教わりました。

長谷川 それは絶対必要、男女共同参画をやっている私たちは修業中かもしれない。頭の中で培われてきた男らしさ女らしさを一度、壊してから男と女の関わり方をつくっているところなんだよね。ところで、女性講師って何人くらい？

きらり 全部で50名くらい。男女比は半々。60、70代は男性がほとんど。若手は女性中心。だから30年後には女性が多くなる。怒られても女性にはめげないんですが、男性は次の日来ないんですよ。

長谷川 学生もそうだよ。これからの日本の講談界は女性の力だね。今日の講談だけど、千代の場面で涙が出た。これは面白かったから。面白いのは、違う世界、新しい白い面（おもて）が広がるから。今日の講談も同じだと思った。

きらり 私も講談しながら、一豊が信長の前で言わなくていい妻のことを、人生が左右されるような重要な場面と言ったというのは、妻を対等のパートナーとして認めていたんだと気付いたんです。

長谷川 確かにそうだよ。一豊の妻のイメージは夫唱婦隨のイメージだが、それだけじゃないってことにきらりさんは気づいたんだ。すごいね。

参加者の声（アンケートより）

とても面白かったです。心も体もほぐされて、大切なお話がよく頭に入りました。人生はライブ、必ず途中で終わる・・・本当にそうですね。

無縁社会という深刻な問題も自分の問題と考えることができました。家に戻ったら夫にも話してみたいです。

毎日の生活の中であてはまる事ばかり、生活の中で思い出しながら取り入れていきたいです。夫婦共々。



絆 家族のきずな写真展

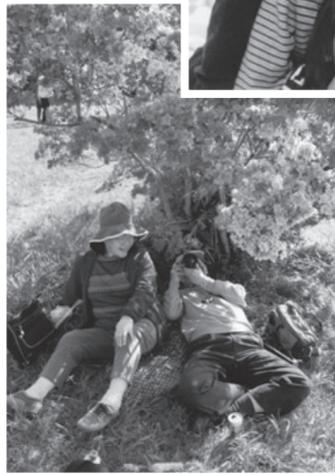
男女共同参画さわやかサロンの「家族の絆」写真展」応募34点の中から、来場者の投票で選ばれた4点の力作。家族の大切さ、一緒にいる幸せが伝わってきます。



「ようしくね お姉ちゃんですよ!!」
(金明町 佐藤由美)



我が子4人パートII
(花栗 桜井智子)



至福のひととき
(栄町 加藤俊昭)



はしゃぐと孫に心なごむ瞬間
(八幡町 木村千晴)

今、考えよう! あなたの身近なDV問題

大切な人を被害者・加害者にしないために! DV問題解決の第一歩は、一人ひとりの知識と勇気です!

知ってますか?
草加市内で
年間182件
もの相談件数

4つの暴力

身体的暴力

- 殴る・蹴る
- 物を投げつける
- 突き飛ばす
- 刃物を振りかざす

性的暴力

- 望まない性行為の強要
- 避妊に協力しない

精神的暴力

- 「誰のおかげで生活できるんだ!」「役立たず!」と暴言を吐く
- 交友関係や毎日の行動を細かく監視する
- 何を言っても無視する
- 脅す

経済的な暴力

- 必要な生活費を渡さない
- 仕事を制限したり、金銭的な自由を与えない
- 勝手に借金を重ねる

意外と知らぬ間に4つの暴力

さて、ここでは暴力の意味について詳しくご紹介いたします。暴力というと、一般的には「殴る、蹴る」などの身体的暴力をイメージしますが、DVの場合でいう「暴力」には、大きくわけて4つの種類があります。体に危害を加える「身体的暴力」、精神的にストレスを与え続ける「精神的暴力」、相手が望まないことを強要する「性的暴力」、金銭的自由を奪う「経済的暴力」です。見逃してはいけません。被害者を支配・

高まるDVへの関心 その現状と対策は

DV(ドメスティック・バイオレンス)の定義は、一般的に「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るられる暴力」です。また、配偶者暴力防止法では、被害者を女性に限定していませんが、現状はほとんどが女性の被害者です。

※人によっては、親子間の暴力などの「家庭内暴力」も含める場合がありますが、「DV」は主に配偶者からの暴力を言います。

配偶者からの暴力は、人権を侵害する重大な問題ですが、相談件数や調査結果などから、多くの人が被害を受けていることがわかります。内閣府によると、配偶者暴力相

草加市にも同じような傾向が見られます。

平成21年1月〜12月の市役所人権共生課および「女性の生き方なんでも相談」への相談が135件だったのに対して、22年1月〜12月には182件と増加しています。しかし、「草加市男女共同参画アン

皆さんは、DV(ドメスティック・バイオレンス)という言葉を知っていますか? DVとは、親しい男女間の暴力を言いますが、それゆえに表面化しにくく、第三者からの適切なサポートが遅れるケースがあります。また近年では、「デートDV」という若い世代の「暴力」も、社会問題化しています。さらに草加市内においても平成22年は182件ものDVに関する相談がありました。そこで、大切な人をDVの被害者や加害者にしないために、また自分自身の身を守るために、DVについての正しい知識や、相談窓口などの情報をわかりやすく特集しました。

相談の有無

性別	相談した	相談しなかった(できなかった)	無回答
全体(76)	23.7%	75.0%	
女性(54)	22.2%	75.9%	
男性(18)	16.7%	83.3%	

(注) 5%未満の数値は無回答(全体1.3 女性1.9)

相談先

相談先	女性(12)	男性(3)
友人・知人	66.7%	75.0%
家族や親戚	44.4%	66.7%
行政の相談窓口	22.2%	33.3%
警察	5.6%	0.0%
勤務先の相談窓口	0.0%	0.0%
民間の相談窓口	0.0%	0.0%
その他	5.6%	8.3%
無回答	0.0%	0.0%

(回表)「草加市男女共同参画アンケート(平成21年度調査)」p.60より、図1-44、図1-45を引用

暴力を防止するための

束縛するために、加害者から一方的に行われる行為だということ。またDVには一定のサイクルがあるとされ、「蓄積期」においては内面にストレスをため込み、徐々に緊張が蓄積します。それがピークに達すると「爆発期」へ進み、暴力でストレスを発散させます。しばらくすると「オレが悪かった」「二度としない」と優しく見せかける「ハネムーン期」が訪れます。このハネムーン期のために、被害者が抜け出しづらくなるようです。

性別を問わずに子ども頃から家庭や学校で、次のようなことを学ぶことが大切です。

- 暴力を用いない、言葉によるコミュニケーションづくり
- 男女平等
- 相手を尊重し、対等な人間関係づくり

そして、一人ひとりがDVについて正しい知識を持つことで、暴力のない社会と安全な人間関係の土壌を育むことができます。

デートDVセルフチェック

「カレが私のケータイを見せろってうるさいの」「いつもは優しいカレなのに、気に入らないことがあるとすぐ怒りだすの...」

恋人同士の間で起こる暴力「デートDV」には、身体的な暴力だけでなく、言葉などによる精神的暴力や行動の制限、性的暴力や経済的暴力など様々な形があります。

2008年の内閣府による調査では、女性の13.6%、男性の4.3%が交際相手から身体的暴行、心理的攻撃、性的強要を受けた経験があると回答しています。中でも20代女性は21.3%が被害経験ありという結果に。意外と身近なDV被害、あなた自身や身の回りに思い当たること、ありませんか?

恋する、中高生も

デートDVセルフチェック

もしかして被害者かも?

- 怒鳴られたり、叩いたり蹴ったりされる
- 意見を合わせないと怒られる
- 金を払われたり、貸した金を返してくれない
- 携帯に出なかつたり、返信をすくじないと怒られる
- 行動を細かく報告させられる
- 携帯を勝手に見られたり、メールを消されたりする
- ウザイ・ダサイなど、見下した言い方をされる
- 気が進まないことでも、断ることが出来ない
- 相手が怒るのは自分のせいだと感じている
- 心のどこかで相手に恐怖心を感じている

一つでもチェックが付けば被害者の可能性も。二人の関係、大丈夫ですか?

SOS ひとりで悩まないで!! 困ったときの連絡相談はこちらへどうぞ

相談機関名	電話番号	受付時間等
DV相談ナビダイヤル	0570-055-210	自動音声案内
女性の生き方なんでも相談【草加市文化会館】	048-931-9325 内線50	毎週木曜、第1土曜 13:00~17:00
配偶者暴力相談支援センター【埼玉県婦人相談センター-DV相談室】	048-863-6060	月~土曜 9:30~20:30 日曜・祝日 9:30~17:00
With You さいたま電話相談	048-600-3800	月~土曜(第3木曜除く) 10:00~20:30
草加市人権共生課	048-922-0825	月~金(休日除く) 8:30~17:15
草加警察署生活安全課	048-943-0110	月~金(休日除く) 8:30~17:15

学ぶ 平成18年度から“DV被害者支援講座”を実施しています!!

特定非営利活動法人 みんなのまち草の根ネットの会 (略称 草の根ネット)

草の根ネットは、男女共同参画社会づくりが基本理念です。平成18年度に「DV被害者支援ボランティア育成講座」の入門編でスタートし、4回目となる今年度は、表のような相談育成につながる講座を開催しました。「DV」を正しく理解して、地域の中に一人でも多くの支援者を増やすことを目的としています。

平成22年度の出席者は延べ69名で、学んだことを活かし、役立てたいという声が届いていて、これからは講座を通して実践的な活動を展開していきたいと思っています。

平成22年度実施の講座内容

DV被害者支援ボランティア育成講座
~知って気づいてなくしていこう~

第1回	①「DVの基礎」 ②「ビデオ考察・意見交換会」 元駒澤女子大学教授 平松千枝子氏
第2回	③「被害者の支援について」 ④「事例研修」 NPO法人「女性ネットSaya-Saya」代表理事 松本和子氏
第3回	⑤「相談事業への対応」 ⑥「事例研修」実践 社会福祉士 三鬼和子氏

連絡先/草の根ネット事務局
電話090-1129-5522 Fax048-942-4424
メールアドレス kusanone@monet.co.jp

それいゆ川柳

「それいゆ」第61号で募集し

皆様からお寄せいただいた作品です。

◆ 現役を 去れば部下なし 財布なし

吉町 木村 勝

◆ 女性より 男の頭は ツルリンパー

栄町 笹沼 清

◆ とりに出す 男(自分)の本音 決断を

原町 河野 隆

◆ ペットから 夫婦の絆 乗っ取られ

氷川町 只野 広平

◆ 本心は いつも女房に 手を合わせ

原町 大平 勝朗

◆ 定年を 待つてる妻は 退職金

谷塚町 恩田 尚洸

◆ 男には 言えないつらさ 更年期

栄町 田中 典子

◆ ハラハラと ただいまど声 待っている

瀬崎町 鈴木 博行

◆ 定年後 居る場所探して 職探し

谷塚町 又辺 建二

◆ 一人酒 愚痴と欠伸と 溜息と

谷塚町 小堺 二六

次号の作品(川柳)募集

テーマは「私の大当たり」

住所、氏名、電話番号、コメントを添えて、ハガキ、FAXまたはEメールでご応募ください。

《締切》平成23年5月9日(月)まで
《送り先》〒340-8550草加市高砂1の1の1
草加市役所人権共生課

《電話》048-9222-0825

《FAX》048-9227-4955

《Eメール》jinken-kyosei@city.soka.saitama.jp

男女共同参画社会の実現を目指す
ための活動・交流・情報発信の拠点。
どなたでも利用できます。

イベントについて

今年度も各種のイベントを開催し、多くの方が来場されました。

★23年度イベントの予定
「わたしの“ほんね”作品展パート5」「親子料理教室」「ビデオ&トーク」「写真展」「学習会」

44年前、森村桂さんに出会い、自慢のバナナケーキの作り方を教わる。昨年アリスの丘を訪れ写真の彼女と再会。彼女の本を探しに“さわやかサロン”を訪れた。ここで「わたしの“ほんね”作品展」を知り、早速応募。展示された自分の文章を前に、額に汗がじっとり。心はうれしさと小さな自信が湧き、次回への意欲につながった。ビデオ鑑賞会で荻野吟子さんの生涯を知り、勇気と感動をもらった。ほっとできるサロン。つつい足が向いてしまう私。

(佐瀬 登美江)

出かけてみませんか?

「男女共同参画さわやかサロン」

場 所 草加市文化会館2階 図書資料室
利用時間 平日と第1土曜 午前9時～午後5時
連絡先 048-931-9325⑤0

旅が好き、写真が好き、海外旅行で撮り貯めた写真を“さわやかサロン”の「写真展」に出展し、皆さんに見ていただく機会を与えてもらい、来場者から、いろいろな感想を聞くことができる。懸命に力強く生きる姿、人と人との絆の大切さなど、特に発展途上国の写真は反響が大きい。この旅の思い出は55冊の旅行記にまとめているが、こちらに関心を持ってくれる人がいてうれしい。

「わたしの“ほんね”作品展」では、川柳や短文で気持ち表し、「ほんね」をつづやいている。男女平等のテーマの作品を作った時は、改めて妻への感謝の気持ちを再認識し、お互い支えあっていたかなければとつくづく思った。

(吉田 俊雄)

編集後記

最近、子どもを虐待して死亡させたり、怪我をさせるニュースをよく目にする。片や、私の身近には子宝に恵まれず、悩んでいる女性がいる。神様も親を選んで、子どもを授けてくれればいいのにと思ってしまう。幼児の頃、親に虐待された子どもの心の傷を思うと悲しくて、心が萎れてしまう。少子化のこの頃、生れてくるすべての子どもが、周りの大人から愛されて育ってほしいと切に願っている。(S・T)

「もっと草加のことが知りたい」と思い、編集委員に参加しました。身近なDV問題を掘り下げながら、市には交流の場や相談窓口があることを知り、活用しなければもったいないと感じました。編集作業で一緒にしたスタッフの皆さま、ありがとうございました！(N・O)

自分が自分らしく生きるこの大切さ。これを学ぶきっかけを与えてくれたのが「男女共同参画」でした。社会通念上、いまだ男尊女卑が根底にある現代に「これって、ちよつとおかしくない？」と疑問符を投げかけたい。「男性だからできること」「女性だからできること」それらをお互いに尊重して、足りない部分へは力を貸し、共に生きていく。「それいゆ」を通して、そんな心の芽生えを応援できたことに・・・感謝。(N・T)

女性の生き方なんでも相談 担当相談員

小林麻子先生インタビュー

人間関係や仕事、家庭生活など、女性の悩みならどんなことでも相談できる「女性の生き方なんでも相談」。相談員の小林麻子先生に編集協力員がインタビュー。

●相談で感じることは？

経済的な問題、子どもの問題、精神的不調で来談し、話を聞いていく中でDVの存在に気づくこともある。夫からの支配や束縛がDVであると認識していない人が多い。

●どんなアドバイスをするのでですか？

アドバイスというよりは、本人の選択肢が広がり、本人にとって一番良い選択ができるようお手伝いしたいと考えている。夫からのDVがあっても、家庭生活を続けていかなければならない事情があったり、離婚後の生活への不安(住居、就職、子どもの学校等)があったりして、すぐには家を出られない場合も多い。こうした状況を理解した上で、本人の心の準備が整うまで一緒に寄り添っていく心がけている。

●DVを受けた妻に対して思うことは？

家庭を守るところか家族の気持ちを踏みにじる夫を抱えながら、仕事や家事、育児を続けて

いる妻は、想像を絶する努力をしている。暴力や暴言にも耐え、それでも夫と一緒に生活しているのは、彼女が何よりも家庭を大切に思っているからなのだと感じる。相談の中で「自分は何もできない」という言葉をよく耳にするが、実際は能力の高い人が多い。どうか自尊心を取り戻して、自分らしい生き方をして欲しい。

●悩んでいる人へのメッセージを

DVは人間関係の病気である。「私がい慢すれば何とかなる」というものではないので、ひとりで悩まず、まずは相談して欲しい。相談することで自分の状況を客観的に捉えることができるし、自分の人生を考える良いきっかけとなる。

※相談の予約は3ページをご覧ください。



臨床心理士 小林麻子先生